

徳島県勝浦町から発見された世界最古のアドクス属（スッポンの仲間）化石について

1. 概要

徳島県立博物館が、福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所などと共同で行っている勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査で、発見されていたカメ類化石がアドクス属（スッポンの仲間）であることが判明した。

勝浦町のアドクス属化石は、属(※)として世界最古の記録にあたり、同グループの進化や多様化を明らかにする上で重要な資料となる。この発見については、令和5年9月17日（日）から同年9月19日（火）まで京都大学で開催される日本地質学会第130年学術大会にて、福井県立恐竜博物館との共同による発表を行う。

(※)生物を分類する際に使われる区分のひとつ

2. 化石について

(1) アドクス属について

アドクス属とは、白亜紀前期から始新世にかけて（約1億3000万年前～約3400万年前）アジアと北米に生息していた淡水生のカメ類である。絶滅したスッポンの仲間（スッポン上科）だが、現在のスッポンと姿は異なり、イシガメやヌマガメのような姿をした半水生種であったとされている。

(2) 発見されたアドクス属化石について

これまでの調査（2016年～現在）により、勝浦町の恐竜化石含有層からは500点以上のカメ類の甲羅化石が発見されている。それらを詳しく調べたところ、甲羅の特徴からアドクス属と同定される化石が複数点見つかった。甲羅化石は複数個体に基づくと考えられる。

3. 発見の意義

アドクス属の化石は、前期白亜紀からの報告が少なく、世界の中でも福井県および福岡県の約1億2000万年前の地層からしか知られていなかった。これまでは、これらが世界最古のアドクス属であった。勝浦町から発見されたアドクス属化石は、約1億3000万年前（物部川層群立川層）のものであり、これが世界最古の記録に相当し、同グループの進化や多様化を明らかにする上で重要な資料となる。

4. 一般公開について

(1) 日時：令和5年9月22日（金）～

(2) 場所：徳島県立博物館 常設展 徳島恐竜コレクション



勝浦町の発掘現場の様子（令和4年12月13日撮影）



アドクス属の甲羅化石（背側）



アドクス属の生体復元画（画：山本匠）